

地球規模で医療援助活動を展開するアジア医師連絡協議会（AMDA）の本部（岡山市榴津）は今、ちょっとした、名所だ。さまざま人々が全国各地、そして世界中からつ

AMDA副代表で、アフリカ各地やネパールの難民らへの救援プロジェクト委員長を務める山本秀樹さん（三〇）岡山市伊福町は連日、対応に忙しい。「AMDAの存在が、地域に新しい人や情報の流れを呼び起こしている」と誇らしげに山本さん。「私たちが提唱する『国際

「貢献」の「門前町」

貢献トピア岡山構想」の成果の表れといえる」と歓迎する。

ここ一カ月だけでも、AMDAの各国活動場所への研修や視察の参加者、国連事業として現地に派遣される青年海外協力隊OB、AMDAの関連組織づくりに奔走する東京、大阪の若者、中国・上海医科大の教授陣……と訪問者は波のように次から次へ。まさに、国際貢献の「門前町」だ。

■ ネットワーク

NGO（非政府組織）活動を通じ「世界への窓口」ともなっているAMDA。現在、活動中の場所はアジ

人、情報の流れ呼ぶ

三十三カ国で活動するNGOのネットワーク「INNED」（緊急救援と開発のための国際NGOネットワーク）もその一つ。六年に岡山県の各種団体とともに開い

ア、アフリカ、ヨーロッパ、計十九カ国。本部事務所では、現地との電話のやり取りに英語が飛び交う。「世界各地での活動に参加できることが、多くの人を岡山市へと足を運ばせる求心力になっている。それ

た「第一回おみやげ国際貢献NGOサミット」の参加団体で形成した。INNEDの初のプロジェクトとなった。アフリカ・スーダンのAMDAの医療援助の責任者は、山本さんが務めている。

を支えているのが各地を結ぶネットワークだ。山本さんはこう考える。アジアの医学生との連携を

基に昭和五十九年に設立されたAMDA。その歴史はネットワーク形成の過程でもあった。現在、AMDAの支部は日本を含めアジア、アフリカ、南北アメリカなど計十八カ国に及び、そして新たなネットワークづくりに力を入れている。

■ 模索

山本さんはAMDA設立当時からメジャー。山口市出身。岡山大学医学部に入り、同大学院、米岡ハ



アフリカ・スーダンに派遣するスタッフに現地の状況を説明する山本さん（左）＝岡山市・AMDA本部

その模索の中で、ネットワークづくりの強化、AMDA飛躍への転機になったのが、ネパールのブータン難民救援活動だった。

四月六月。難民の存在さえ日本で報道されていない時、ネパール支部からの支援要請で山本さんは現地に飛んだ。難民キャンプでは、赤痢などで死者も相次いでいた。

現地の支部医師らは、政府や国連、キャンプなどを走り回り、医療センター設立など事業展開に大きな役割を果たした。また、地域特有の疾患について、いち早く診断して原因を究明し活躍した。

「現地の文化や習慣、宗教、適した治療法などを知り尽くした地元医師らの存在が、援助のパートナーとして欠かせない。ネットワークの大切さをあらためて痛感した」と山本さんは振り返る。

■ 世界へ発信

ネットワーク充実に伴いAMDAに世界各地の情報が直接入るようになった。ブータン難民のように、外交ルートからでない独自の情報入手も多い。AMDA

この連載は読者とともに地域づくりを考える企画です。山陽新聞社「くにづくり 熱き人々」取材班（電話086-244-6779、ファク086-244-4923）まで、ご意見、ご感想をお寄せください。

「岡山を核としたネットワークは『国際貢献トピア岡山構想』の根幹でもある」という山本さん。岡山へのこだわりを持つ。今、山本さんは「岡山から世界へ向けた情報発信」に力を入れている。山本さんの提案で、AMDA本部は昨年、インターネットにホームページを開設した。

専門（公衆衛生学）を生かして、乳幼児などの死亡率が極めて低い岡山県の保健医療システムをアジアに広めたいとも願う。さらに、海外活動現場の映像などがダイレクトに本部に送信できる通信システムの検討も始めている。

「緊急時にボランティアが大勢駆け付けるなどAMDAを育て、最も理解してくれているのは岡山の人々。だから岡山の国際化に役立ちたい」

「人々」